

活動状況報告書（12月分）

文化芸術コース 酒井 らん

12月のパリは寒い日が続いていますが、先月初雪が降って以来、一度も雪が降っておりません。北海道の美しい雪景色が懐かしく感じられます。

10月から学校が始まり、環境や授業に慣れるまで緊張が続いた2ヶ月間でしたが、無事に今学期を終えることができ、今月22日からはクリスマス休暇に入りました。休暇前の最後の初見のレッスンでは、教授がクリスマスにちなんだ課題曲を用意してくださり、クリスマスの曲を初見で演奏するという、いつもとは少し違ったとても温かい雰囲気の中でレッスンをしてくださいました。室内楽という少人数編成で音楽を演奏する授業では、2台ピアノに取り組んでおりますが、ソロとは違い2人で音楽を創り上げていかなければならないため、作品を完成させるためにとても多くの課題があります。お互いの曲に対する解釈を一致させるため、録音した音源を何度も聴き直し話し合ったり、2台一緒に練習時間を確保するなど大変なことが多いですが、どんな小さなことも共有し毎回のレッスンで教授にアドバイスをいただきながら、真剣に作品に取り組んでいきたいと思っております。

ソロの授業では、今月は特別にサンドラ・シャム教授のレッスンを受講する機会がありました。曲はメンデルスゾーンの幻想曲をみていただき、最初の1音から音の深みや細かな強弱、和声の移り変わり、各楽章の弾き分け方など、とても丁寧にそしてわかりやすく授業をしてくださいました。複数の先生にレッスンをしていただくことで、本当に多くの学びや発見があり、曲に対する解釈を更に深めることができます。今月もとても充実した時間を過ごすことができました。

また今月はフィルハーモニー・ド・パリで行われた、世界文化賞を受賞されたピレシュさんのコンサートに行くことができました。プログラムはモーツァルトピアノ協奏曲9番でした。最高峰のモーツァルトを生で聴くことができ、どこまでも美しい煌びやかな音色とピレシュさんの世界観に圧倒され、私の人生で忘れられない日になりました。

そしてパリでは今月8日、遂にノートルダム大聖堂が再建され一般公開が始まり、2日間にわたって再開を祝う式典が行われました。新しく生まれ変わったノートルダムを直接この目で見るのが本当に嬉しかったです。年明けには、いくつかのオーディションや試験があるため、新年に向けて気持ちを引き締め目標に向かって日々精進してまいります。

